ひかり

No. 125

令和7年3月1日
発　行
浄土真宗本願寺派
和歌山教区日高組
発行責任者
永　原　智　行

正しいものに遇って
正しくない自分を
知らされている

中川清昭
『心に響くことば』より

第２９回**真宗法座**　　（由良町衣奈西教寺にて）

ヒダカくん・ひかりちゃんの『御文章』のお話 その27

毎月両度章（四帖十二）

そもそも、毎月両度の寄合の由来はなにのためぞといふに、さらに他のことにあらず。自身の往生極楽の信心獲得のためなるがゆゑなり。しかれば往古より今にいたるまでも、毎月の寄合といふことは、いづくにもこれありといへども、さらに信心の沙汰とては、かつてもつてこれなし。ことに近年は、いづくにも寄合のときは、ただ酒・飯・茶なんどばかりにてみなみな退散せり。これは仏法の本意にはしかるべからざる次第なり。

いかにも不信の面面は、一段の不審をもたてて、信心の有無を沙汰すべきところに、なにの所詮もなく退散せしむる条、しかるべからずおぼえはんべり。よくよく思案をめぐらすべきことなり。所詮自今以後においては、不信の面面はあひたがひに信心の讃嘆あるべきこと肝要なり。

それ当流の安心のおもむきといふは、あながちにわが身の罪障のふかきによらず、ただもろもろの雑行のこころをやめて、一心に阿弥陀如来に帰命して、今度の一大事の後生たすけたまへとふかくたのまん衆生をば、ことごとくたすけたまふべきこと、さらに疑あるべからず。かくのごとくよくこころえたる人は、まことに百即百生なるべきなり。

このうへには、毎月の寄合をいたしても、報恩謝徳のためとこころえなば、これこそ真実の信心を具足せしめたる行者ともなづくべきものなり。

あなかしこ、あなかしこ。

◎語句

毎月両度の寄合…毎月、親鸞聖人の命日の二十八日と法然上人の命日の二十五日に会合をもった

往古…遠い昔

いづくにも…どこにも

信心の沙汰…信心についての話し合い

酒飯茶なんどばかり…飲食だけに終ってしまうこと

一段の…格別の

信心の讃嘆…讃嘆とは褒め称えることであるが、ここでは信心について話し合うこと

罪障…往生のさまたげとなる悪業

百即百生…善導大師の『礼讃』の言葉で、信心の人は一人ももれず往生できるということ

報恩謝徳…受けた恩や徳に感謝し報いる

具足…たしかに備えていること

◎現代語訳・大意

毎月二度の会合をするのはなんのためかと言えば、自身が浄土に往生する、その信心を得るためです。ところが、その信心について話し合うことが全くなくて、近頃は飲み食いだけして、信心の有無を話し合うべきなのに、なんの得るところもなく帰ってしまうのでは、会合した意味がありません。これからは、信心を決定していない人々はお互いに信心について話し合うことが大切です。

そもそも浄土真宗の信心とは、いかに自分の罪が深くとも、自力のはからいを捨てて、二心なく阿弥陀如来に帰命し、後生をおたすけくださいと如来におまかせすることです。その衆生を、如来がことごとくお救いくださることは疑いありません。このように信心のいわれをよく心得た百人が百人、みな往生できるのです。その上で毎月会合をしても、仏恩報謝のためと承知するならば、それこそ真実信心を得た行者といえましょう。

このように信心のいわれを心得た後に私たちが称える念佛はすべて、本願のはたらきによってお救いくださることは疑いありません。このように信心のいわれをよく心得た百人が百人、みな往生できるのです。その上で毎月会合をしても、仏恩報謝のためと承知するならば、それこそ真実信心を得た行者といえましょう。

ひかりちゃん　毎月両度と言うけれど、どういうことなの。

ひだかくん　毎月に二度、お寺に寄り合いをしたと言うことだよ。親鸞聖人のご命日と親鸞聖人のご師匠の法然上人のご命日にみんなが集まってきて、お勤めをして、みんなで食事をしたんだよ。

ひかり　へぇー。月に二度も寄り合いをするなんて大変ね。

ひだか　今は、テレビがあったり、毎日決まった時間にお勤めがあったりする時代だから、村のみんなが一カ所に集まるのは難しくなったけれど、当時はそうではなかったんだ。

ひかり　当時ってどんな時代だったの？

ひだか　村の人々のほとんどは農業の方々だったが、自分の土地を持ち、自分の収入のために働く人はまれだったんだ。多くは、京都にいる貴族や地方にいる武士が所有する土地を耕していてね。その土地で働く人々は、土地の所有者に属しているという意識を持っていたが、地域全体に属しているという意識はなかったんだ。

ひかり　難しいわね。もっと簡単に言ってよ。

ひだか　この土地に住む方々は、その地域のさまざまな人々と関わっていただろ。たとえば、地元小学校や地元中学校に自分の子どもを通わせたり、自分自身も通った経験がある人も多いんだ。また、お寺やお祭りといった地域の文化を共有してるよね。

一方、地元に住んでいても、たとえばＡさんはＢという地主の土地を耕し、ＣさんはＤという地主の土地を耕していた。ＡさんとＣさんは、それぞれ異なる地主の下で働いていたんだ。現代風に言えば、Ａさんとさんは別々の会社で働いているようなものだね

ひかり　それじゃ、今と一緒じゃないの。

ひだか　今は、町内会とか、小中学校が同じと言うことでいわゆる横のつながりがある。それが、蓮如さんの頃にはかえってこの横のつながりがなかったんだ。

それ（横のつながり）を、南無阿弥陀仏のもとで「みな平等である」ということを共有できる場として、お寺が生まれたんだよ。

一ヶ月のうち二日以外はそれぞれ別々の仕事をしていたが、平等に仏を拝み、お説教を聞き、食事をともにする仲間として「お講」というつながりを持つようになったんだ。

ひかり　そういえば、教専寺には「倶会一処」と書いたものがあるけれど、その裏には〇月××講と書いてあるわね。

ひだか　そうだよ。一昔前までは、教専寺も毎月お寺に人々がお参りし、お斎（食事）をしていたんだ。

ひかり　みんなでいただくお斎はおいしいわね。そんないわれがあったとは、今まで知りませんでした。長い歴史の上に成り立っているのね。

西本願寺のお斎：御正忌報恩講中、国宝 書院（鴻之間）で、おおむね江戸時代から変わらぬ食材を用いた伝統の精進料理を、朱塗りの什器やお膳で提供しています。

専福寺で初の合同研修会
ギター弾き語りと法話で大合唱

寺族女性会　報恩講・研修会
仏教婦人会　後期研修会

2月1日、由良町江ノ駒の専福寺で、寺族女性会主催の報恩講・研修会が催されました。

今回は初の試みとして、組仏教婦人会も後期研修会として加わり、合同開催となりました。当日は、両会の会員ら約50名が参加。正信偈・和讃のお勤めの後、衣奈西教寺の藤田眞雄住職によるギターの弾き語りと、演奏曲にちなんだ法話が行われました。

藤田住職が披露したのは、懐メロやフォークソングなど、誰もが聞き覚えのある曲ばかり。参加者も手拍子で応援したり、最後の曲「ふるさと」を全員で大合唱するなど、大いに盛り上がりました。

日高町から参加した婦人会員からは「いつも研修会や法座では難しい内容ばかりなので、今日のように楽しくお聴聞できる法座は嬉しい」と感想をいただきました。

日高地方、特に海岸筋の寺院では、教化団体単独での研修会では参加者が集まりにくいという課題がありました。今回の合同研修会は、今後の研修のあり方を考える上で、貴重な機会となりました。

法悦クイズ

Q．．『仏説阿弥陀経』に何度もでてくる「舎利弗」とは何でしょうか？

次の①～③の中から一つ選んで番号を書いてください。

①ご飯を入れる鉢のこと
②人間の白骨のこと
③お釈迦さまの高弟（シャーリプトラ）のこと

一二四号の正解は「①誓願（せいがん）の数に合わせて48本」でした。

阿弥陀如来の光背の頭光が放射線状に48本あるのが浄土真宗のご本尊の特徴です。

【応募方法】

ハガキ、日高組ホームページにてご応募してください。

○ハガキで応募

裏

① 法悦クイズの答え ※必須
② 住　所 ※必須
③ 氏名（ふりがな） ※必須
④ 年　齢
⑤ 電話番号
⑥ 所属寺（○○寺） ※必須
⑦「ひかり」に対するご意見ご感想等

表

63円切手

〒649－1113
和歌山県日高郡
由良町阿戸244番地
教専寺内　日高組事務所　行

○ホームページから応募

日高組ホームページのメニュー内にあります応募フォームより、必要事項をご記入の上送信ください。

日高組ホームページへのアクセス方法
下記のいずれかの方法で、日高組ホームページにアクセスできます。

○URLを直接入力してアクセス

下記のURLを直接入力してアクセスしてください。
http://hidakaso.jimdo.com

○バーコード（QRコード）からアクセス

お使いのスマートフォン等にQRコード読み取り機能で右のQRコードを読み取るだけでURLが表示されます。アドレス入力しなくても手軽にアクセスできます。

【応募締め切り】
2025（令和7）年5月31日（必着）　発表は次号です

☆正解者の中から抽選で10名の方に『粗品』を進呈します。

正解者の中から、次の方に粗品を進呈いたします。

由良町	濵野艶子　様	由良町	中恵香織　様
由良町	畑中靖子　様	由良町	田中　宏　様
由良町	石橋美智子様	由良町	原井敦子　様
由良町	中口小夜美様	由良町	松下光男　様
御坊市	塩田廣一　様	日高町	塩嵜隆弘　様

法話

『他力本願』

「他力本願」という言葉は「広辞苑」では、「①阿弥陀仏の本願、②転じて、もっぱら他人の力をあてにすること」とあります。

浄土真宗の根幹をなす大切な言葉ですが、本来の意味とは違う誤った使い方がされています。

プロ野球でシーズン終盤になると、スポーツ新聞に「自力優勝消滅」（自チームが残りの試合を全勝しても優勝できない状況）や「優勝は他力本願」（他のチームの勝敗次第で優勝が決まる状況）という見出しの記事が掲載されることがあります。

この場合の他力本願は、自分の願望のために他人の力をあてにするという意味で使われています。

また、昨年七月の鹿児島県知事選挙で県選挙管理委員会が製作した投票を呼びかける啓発ポスターに「他力本願知事・ほかだ よりひこ」と記されていて、鹿児島別院等が県選管に抗議文を提出し、本来の意味から逸脱した誤用であることを指摘したところ、ポスターが訂正されました。刷り直したポスターや動画では「人まかせ知事」となっていました。

このように「他力本願」という言葉は、「もっぱら他人の力をあてにすること、他人任せにすること」と誤用されています。

本来の「他力本願」の「他力」は、「他力といふは如来の本願力なり」（教行信証・行巻）と示されているように、阿弥陀如来の本願のはたらきをいいます。

親鸞聖人は「他力とは義（はからい）なきを義とす」といわれています。

また、「本願」とは衆生救済のための根本となる願の意で、阿弥陀如来の四十八願の中、特に「念仏往生の願（至心信楽の願）」といわれる※第十八願をさしています。

本来の「他力本願」とは、阿弥陀如来の願いを実現させるはたらきを意味する言葉であり、「本願力」と同じ意味です。本願力は、南無阿弥陀仏の名号として私たちに与えられています。名号には、私たちが浄土に往生して仏となるのに必要な徳が完全にそなわっているのです。私の心に名号が至り届いたとき、名号のはたらきによって私の往生成仏が決定します。これが信心であり、この名号が私の口から声となってあらわれたのが念仏で、他力の念仏といわれるのです。

※『第十八願』
「たとひわれ仏を得たらんに、十方の衆生、至心信楽してわが国に生ぜんと欲ひて、乃至十念せん。もし生ぜずは、正覚を取らじ。ただ五逆と誹謗正法とをば除く」
（わたしが仏になるとき、全ての人々が心から信じて、わたしの国（浄土）に生まれたいと願い、わずか十回でも念仏して、もし生まれることができないようなら、わたしは決してさとりを開きません。ただし、五逆の罪を犯したり、正しい仏法の教えを謗るものは除く）

（松本）

門徒心得

「仏説阿弥陀経の中の舎利弗」

ご法事などでよくお勤めされる、『仏説阿弥陀経』ですが、このお経の中で「舎利弗」という言葉は計38回出てきます。初めの２回と最後の計３回は状況説明の中で出てきますが、残りの「舎利弗」はお釈迦さまが説法の中で、直接呼びかけられている言葉です。

つまり「なぁ、舎利弗よ・・・」と、親しく名前を呼んで、次に話す内容をよく聞くように注意を喚起されているのです。それが33回もあるわけです。

『阿弥陀経』が「無問自説の経」と言われるように、弟子たちの問いを待たずに、お釈迦さま自らがひたすら語り続けられる教えであることを考え合せると、私たち一人ひとりを救おうとされるお気持ちが、いかに切実かが伝わってきます。ですから、「舎利弗」というお呼びかけは、自分自身の名前に置き換えて聞くべきでしょう。

舎利弗は、インド名ではシャーリプトラといわれます。お釈迦さまの大勢おられた弟子の中で、特に優れた10人の内の一人で、智慧第一と讃えられております。

（鈴木章吾）

涙と笑いに包まれた衣奈西教寺 改築後初の　真宗法座

12月8日、美しく生まれ変わった衣奈西教寺にて、改築後初の真宗法座が開催されました。

奈良から旭堂南歌（きょくどうなんか）さんをお招きし、仏教講談と歌謡の宴という趣向で、時に涙し、時に笑う素晴らしい時間となりました。

第一部：親鸞聖人の生涯を辿る

第一部では、親鸞聖人の生い立ちから越後流罪までを、南歌さんの情感豊かな語り口で辿りました。

第二部：恵信尼公との出会いと生涯

第二部では、恵信尼（えしんに）公との出会い、互いを観世音菩薩と敬いながら共に歩まれたご生涯を、妻として女性として聖人を支えられた恵信尼公の立場から語りました。仏説無量寿経の「仏仏相念（ぶつぶつそうねん）」という言葉が脳裏をよぎるような、夫婦の深い絆を感じさせるお話でした。

末娘の覚信尼（かくしんに）さまからの聖人ご往生の報を恵信尼公が受け取られた場面では、臨場感あふれる語りに多くの人が涙腺を緩ませました。なんまんだぶ。

歌う講談師・旭堂南歌さんの熱唱

法座の締めくくりには、歌う講談師でもある南歌さんが新曲「橿原（かしはら）の女（ひと）」を熱唱。歌手名・川本三栄子としても活躍されています。

終了後には、蓮如上人ご生涯の仏教講談もレパートリーにあるというお話もあり、参加者をワクワクさせました。

改築された美しい衣奈西教寺での初めての真宗法座は、旭堂南歌さんの素晴らしい講談と歌謡によって、参加者にとって忘れられない一日となりました。

親鸞聖人御誕生850年
立教開宗800年慶讃法要
本願寺鷺森別院本堂再建30周年記念法要

令和６年11月24日・25日、本願寺鷺森別院本堂において、親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要および本願寺鷺森別院本堂再建30周年記念法要がおつとめされました。

法要には日高組からも多くの方々にお参りいただきました。また初日には帰敬式も行われ、受式された方には法名が授与されました。

組内各地で報恩講が営まれました

日高組内では10月末から1月にかけて各寺院で報恩講法要がおつとめされました。

報恩講は、親鸞聖人の祥月命日（1月16日）にあわせておつとめする法要で、浄土真宗では最も大切な行事です。

善宗寺御正忌報恩講（1月18日・19日厳修）

妙願寺御正忌報恩講（1月11日・12日厳修）

善宗寺では役員の方々のお手伝いをいただき、
立花・お供え、お荘厳を準備（上下写真）

日中に鐘を撞く「除昼の鐘」つき

大みそかの31日、日高町小浦の円行寺では「除夜会」が行われ、午後3時から本堂でのお勤めに引続き、境内にある鐘つき堂で「除夜の鐘」ならぬ「除昼の鐘」つきが行われました。

当日は、天候にも恵まれて、帰省している家族連れなど老若男女多くの方が訪れ、順番に鐘をついていきました。

片桐住職は、「今年は例年以上にたくさんの方に参っていただいた、日中にすることで高齢者や小さい子供さんも参加しやすくなり、今後も続けていきたい」と話していました。

【１０８の由来】

除夜の鐘は多くの寺で１０８回撞かれる。この「１０８」という数の由来については、次のような複数の説があるが、どれが正しいかはわかっていない。

煩悩の数

人間の煩悩の数とする説がある。眼（げん）・耳（に）・鼻（び）・舌（ぜつ）・身（しん）・意（い）の六根のそれぞれに好（こう：気持ちが好い）・悪（あく：気持ちが悪い）・平（へい：どうでもよい）があって18類、この18類それぞれに浄（じょう）・染（せん：きたない）の2類があって36類、この36類を前世・今世・来世の三世に配当して１０８となり、人間の煩悩の数を表す。

四苦八苦

四苦八苦の意味で四九（36）と八九（72）を足したものとする説がある。

１年間

月の数の12、二十四節気の数の24、七十二候の数の72を足した数が１０８となり、１年間を表すとする説がある。

自分の撞く順番待ちの行列、若者の姿が多いと住職も嬉しい

読者の声

※衣奈の西教寺さんの３年かかった修復。大変だったでしょうが、きれいになり親類のお墓もあるので、機会があれば本堂を見てみたいです。『ひかり』に載せてくれ、大変よかったです。

※いつもためになる記事ばかりで参考にしています。

※以前にも何回か粗品を頂いております。母が仏教婦人会の班役員をさせてもらっています。

※何時もお世話になります。以前からクイズに応募させてもらっています。

※毎回楽しみにしています。今回は西教寺本堂再興の様子を載せて頂きありがとうございます。毎朝仏壇の前で念仏を申し日々のありがたさをうれしくおもっています。

※ヒダカくんひかりちゃんの「御文章」のお話し、よくよくわからせていただきありがとうございます。これからもよろしくお願いします。

※日々の暮らしの中での日常が、平和で穏やかに過ごせることの幸せを感謝しつつ、私たちは光背の頭光が放射線状に四十八の願いが光明そのものになって私たちに届き包んで下さっている事や、どんな願いも阿弥陀さまがお救い下さることを知り、ありがたい事です。

※いつもひかり楽しみにさせて頂いています。令和７年は笑顔で迎えられますように祈っています。来年もどうぞよろしくお願いいたします。

※あけましておめでとうございます。今年も楽しみにしております。

※（ご文章の）現代語訳は勉強になります。お経を唱える時も思い出しますので、これからも正信偈や讃仏偈などの訳を楽しみにしています。

※いつも充実した内容をありがとうございます。報恩講等で他のお寺にお参りに行くことがありますが、読経や布教使のお話など大変個性があり楽しみです。お寺とのお付き合いは素晴らしいと感じています。

※いつも興味深く読ませて頂いております！私はよく白骨章を住職に聞かせて頂いていますが、読み聞かせて頂く度に考えさせられることがあります。

※毎号楽しみに拝続させて頂いております。知らない事をひかりで教えて頂きとっても嬉しいです。ありがとうございます。

日高組通信

【行事報告】

☆ **第29回真宗法座**

12月８日（日）、由良町衣奈、西教寺にて開催されました。ご講師には奈良県から歌う講談師・旭堂南歌さんをお迎えし、仏教講談と歌謡の宴という趣向での法座となりました。（１面写真、５面に記事掲載）

☆ **組内会（第２回・第３回）**

第２回は12月14日（土）日高組事務所（教専寺）にて、第３回は実践運動推進僧侶研修会を兼ねて、２月15日（土）、日高町志賀の善宗寺にて開催されました。

☆ **広報部（編集委員会）**

１月29日（月）日高町柏、善宗寺にて１２５号ひかりの編集委員会が開催されました。

☆ **寺族女性会報恩講、研修会**
仏教婦人会研修会

２月１日（土）由良町江ノ駒、専福寺にて開催されました。（３面に記事掲載）

☆ **仏教壮年会研修会（布教大会）**

２月２日（日）由良町里、蓮専寺にて教区布教団所属の３名の布教使による布教大会が開催されました。

☆ **門徒総代会後期研修会**

２月８日（土）日高町比井、長覚寺にて開催されました。講師は当山の亀井真竜住職でした。

【行事計画】

☆ **実践運動推進委員会**

３月１日（土）午後２時から由良町阿戸、教専寺にて開催予定。

☆ **日高組定期組会　物故役職者追悼法要**

３月29日（土）午後２時から日高町志賀、妙願寺にて令和６年度定期組会並びに組役職者の物故者追悼法要を開催予定。